

そっけん

# 息軒だより

三計の教え



令和6年2・3月号(第42号)

発行 宮崎市安井息軒記念館  
管理 NPO 法人 安井息軒顕彰会  
理事長 徳村光郎 館長 川口眞弘  
〒889-1605

宮崎市清武町加納甲3378-1

TEL 0985-84-0234

FAX 0985-84-2634

e-mail [sokken.yasui@pic.bbq.jp](mailto:sokken.yasui@pic.bbq.jp)

<https://yasuisokken.jp>

一日の計は朝<sup>あした</sup>にあり  
一年の計は春にあり  
一生の計は少壮<sup>しょうそう</sup>の時にあり



QRコードを読み取ると、記念館のホームページがご覧になれます

## ～ 令和5年度安井息軒記念館バスツアー ～

### 本年度は新装なった内藤記念博物館をメインに延岡へ…

12月19日、天気は快晴。事前に申し込みをされた約30名の皆様にご参加。現地のガイド役を延岡在住の久富熊雄様、小野信彦様、笹江陽子様が務めてくださいました。今回は延岡城址はもとより、内藤記念博物館、内藤家墓所、そして藩主（後に藩知事）になった内藤政挙（まさたか）を支えた延岡藩における息軒の弟子、原時行の足跡も訪ねました。



## 1月26日は文化財防火デー 火災防ぎょ訓練実施

昭和24年1月26日、世界最古の木造建築物である法隆寺の金堂で火災が発生。大切な壁画を焼失してしまいました。これを機に文化財保護法が制定され、1月26日を文化財防火デーとすることが決定されました。記念館が管理している安井息軒旧宅は大切な国指定史跡。その旧宅を守るために、久々に宮崎市南消防署や地元消防団と連携して火災防ぎょ訓練を実施しました。当日、記念館職員はもとより顕彰会役員、消防関連業者に加えて、地元上中野の自衛消防団の皆様等総勢約40名で本格的な訓練を実施しました。今後も連携を図りながら訓練を重ね、職員の危機管理能力を高め、大切な文化財を守っていききたいと思います。



## ❀ 充実した記念館講座 講師のみなさまありがとうございました ❀

いずれの講座も講師の先生方のおかげで大好評。毎回 30 名以上の受講生で賑わいました。



12月2日 宮崎産業経営大学教授  
甲斐睦教氏  
「三計塾門下生陸奥宗光の外交力」  
息軒には幾多の外交論があり、門下生、陸奥宗光にも大きな影響を…



12月23日 日南市生涯学習課  
専門員 佐藤智文氏「日向国の戦 戦国時代から太平洋戦争」  
幾多の具体的な史料に基づく大変興味深い講座でした。



2月3日 当館学芸員 青山大介  
「息軒の娘:安井息軒の育児論と教育論」  
大儒学者息軒と娘須磨子の意外な実像と、息軒の教育方針について

## 12月から1月の団体ご来館 ありがとうございます❀

大変寒い中ではありましたが、宮崎国際大学や宮崎学園短期大学、大宮小学校や加納小学校、デイケアの皆様、歌会の皆様と多様な利用者の皆様で賑わいました。今年も清武町域はもとより、大宮小学校や西池小学校などたくさんの小学校、宮崎国際大学や宮崎学園短期大学、宮崎公立大学などたくさんの大学、デイケアセンター、近隣の幼保こども園、デイケアセンターや高齢者クラブなどたくさんのグループが団体でご来館いただき、誠にありがとうございました。



12月1日国際大 お佐代さん講座



12月5日 宮崎学園短期大学



12月12日 デイケア健康



12月12日 宮崎学園短期大学



12月13日 大宮小学校4年



12月14日 宮崎学園短期大学



1月24日 加納小学校4年



1月宮崎国際大学の先生方と学生



1月宮崎牧水会の歌会

## 清山知憲市長ご来館 ✨

2月8日（木）、お忙しい公務の合間を縫って、市長がご来館されました。これまでもイベント等にご参加のための短時間のご来館はありましたが、ご公務の合間ということで時間が限られていました。市長は宮崎の偉人である高岡出身の高木兼寛や佐土原出身の根井三郎、そして清武出身の安井息軒など宮崎出身の偉人たちにも深い興味と関心をもっておられますが、ようやく今回 1 時間余りの時間をとってのご来館となりました。

当館学芸員の青山が館内と旧宅をご案内。清山市長は、息軒の江戸末期から明治という新しい時代での活躍、後世に与えた影響などに関する説明に熱心に聞き入り、時折鋭い質問をされていました。市長は特に息軒の政治アドバイザーとしての側面にご感心の様子で、当館が息軒の政治改革書を現代語訳した「安井息軒『救急或問』訳稿」（『息軒研究』第一集）をお持ち帰りいただきました。他県の県庁所在地と比較しますと文化財には若干乏しい宮崎市ですが、素晴らしい偉人はたくさん輩出しております。島津啓次郎や川越進、平部嶺南、福島邦成、岩切章太郎等幾多の綺羅星の如き貴重な偉人たちを核とした、誇り高き市民文化の醸成にご尽力いただけますと幸いです。



## 清武町域の活性化に関する意見交換会 ☆



清武町域の活性化に関する清武総合支所市民福祉総務課との協議 ✨  
1月10日、上記の件について協議しました。支所は清武町域として、「安井息軒」、「オリックス」、「ラーメン街道」の3つをアピールしていきたいとのことで、記念館、顕彰会と協議を実施したわけです。今や強豪となったオリックスのホームグラウンドは「SOKKEN スタジアム」。おおいに連携し、相乗効果を高めたいものです。写真は H28.2 オリックスのルーキーとして来館時の吉田正尚選手です。

## 今に生きる安井息軒の言葉：息軒思想詮釈（読み直し）

安井息軒の〈書『海国図説志』後〉に、

聖人は（略）凡そ我と俗を異にする者は棄てて之を絶つ。豈に其の仁 足らざる所あらんや。謂へらく、「我 吾が民を仁し、彼 其の民を愛せば、普天の下、其の沢を蒙らざるは莫し。我が仁未だ以て彼に洽くするに暇あらず。而も我が愛する所の者、先づ其の害を受く」と。（原文は漢文）

という一文があります。『海国図説志』とは、清国の魏源 [1794-1856] の『海国図志』 [1852] のことで、当時の西洋情勢を紹介した地理書です。日本に輸入され、安政1年 [1854] に和刻本が出版されました。吉田松陰など幕末の志士たちが争って読んだことで有名ですが、息軒も当然読んでいたわけです。

意識すると「古代の聖王は、文化・習俗の違う異国のことは見捨てて一切顧みなかった。聖王に博愛の精神が不足していたわけではない。『自分は自国民に仁政を布き、他国の王はその国民に仁政を布けば、世界中の人が仁政の恩恵を受けられる。他国民の暮らしまで良くしようとしたら、他国民が幸せになる前に、自国民の生活が損なわれる』という意味です。息軒によれば、各国の為政者は自国で仁政を布くことに専念すべきで、他国内政干渉している余裕などないはずなのです。欧米が「瀛海を踰え、絶海を渡り、人の国を盗む」ために押し付けてくるグローバリズム〔という名の帝国主義〕を強く批判するものといえます。もっとも45年に及ぶ明治時代が終わり、息軒の教えを受けた世代が社会の表舞台から引退すると、日本自身が周辺諸国へ進出を始めるのですが。

## 顕彰会による記念館支援事業

### 12月ファミリー息軒塾開催 絵手紙と落款に挑戦 ✨

12月3日(日)、第4回ファミリー息軒塾を開催しました。今回は宮崎国際大学教授の守川美輪先生に講師をお願いし、親子で絵手紙とそれに貼り付ける印章「落款」<sup>らくかん</sup>づくりに挑戦しました。教授は息軒塾のためにご自身で、さまざまな材料を準備してくださいました。おかげ様でユニークな作品がたくさん仕上がりました。



### お佐代さんを偲ぶ会開催

森鷗外の小説『安井夫人』で有名な息軒の妻、川添佐代。1月6日(土)、息軒よりも一回り若く、美しく、聡明であった佐代を偲ぶ「お佐代さんを偲ぶ会」を開催。たくさんの方々が参加し、お佐代さんに想いを馳せました。



### 安井息軒顕彰小学生かるた大会予選会開催

1月6日(土)、午後は小学生かるた大会の予選会を開催しました。当日はたくさんの小学生が参加し、白熱した予選を展開。2月11日、安井息軒顕彰梅まつりの日に安井息軒旧宅で開催される本戦に出場するチームが決定しました。本戦でも頑張り、ぜひ優勝をめざして欲しいものです。

心にしみる物部聖子様の篠笛演奏



### 12月 旧宅清掃 ✨🌈 そして 1月記念館北側斜面竹刈り…

今回も学生やボランティアもたくさん参加。大人数で効率的に作業ができました。一方課題であった記念館北面の竹刈りも実施。急峻ながけで、命の危険を感じながらの懸命な作業でした。市による事業化が望めます ✨



竹刈り後の眺望 はるか遠くまで